［シンポジウム　医史学の新たな展望――健康長寿社会を拓いた先哲から学ぶ――］

趣旨説明

川嶌　眞人
社会医療法人 玄真堂 川嶌整形外科病院

「エドワード・ジェンナーの博物学とその師ジョン・ハンターの外科学」について

近代医学の発達した今日においても感染症との戦いは延々と続いており抗菌剤やワクチンの発達した今日においてもなかなか完全克服する事が出来ていない．特に現在も続けられているポリオワクチンにおいては国際ロータリークラブとビルゲイツ財団を中心に500億円を超す巨額な資金をつぎ込んでも今なおアフガニスタンやパキスタンの周辺で2000人のポリオが発生しており完全な根絶に至っていない．そのような中で1798年ジェンナーが種痘に成功した事は画期的な業績である．このジェンナーの牛痘によるワクチンをシーボルトも日本に導入しようとしたが失敗しており1849年，中津藩の辛島正庵をはじめとする10人の医者達が長崎に出向きバタビア招来の天然痘のワクチンを医師達と同行した彼らの子供達に接種し，中津に帰郷し，その後，2000人を超す多くの子供達に種痘を行っている．ほぼ同時期に佐賀藩や長崎の大村藩，福岡藩も導入しているが，江戸で普及するまでには相当な年月がかかった事はよく知られている．そして1980年，WHOはついに天然痘が根絶したと声明し現代では発生していない．私達はこの先人たちの労苦を偲びポリオワクチンをはじめ多くの未解決の重篤な感染症のワクチンの開発に協力をしていく事が重要であると思われる．

「華岡流の門人たちの痕跡から見た青洲の教え」について

1804年に華岡青洲はマンダラゲ（ナス科の植物）を主体とした通仙散という麻酔薬を開発し，世界で初めて全身麻酔による乳癌の手術に成功している．華岡青洲の下には全国から1800人を超す門人が集まりこの麻酔法を学んだ事が知られており中国，四国，九州などの西日本からも729人もの門人が集った事で知られている．豊前中津藩からも大江雲沢をはじめ5名の医師達が大坂の合水堂（華岡青洲の分塾）に入塾していた事が知られているが学んだ麻酔による手術が実際に行われた事を明確に記述されたものが少ない．その中で愛媛の鎌田玄台など数名の医師達は全身麻酔による手術に成功した事を明確に記録に残している．このような全身麻酔による手術が日本全国で行われていたとすれば米国のエーテルによる全身麻酔は青洲のそれより30年以上も後の事であるから，それに先駆ける世界に誇れる業績である．

「伊藤圭介の先見性と意思の強さ」について

名古屋の伊藤圭介は植物学者であり博物学者として知られており，シーボルトの弟子として広く植物学を研究し，多くの植物学に関する著者を著した事で知られている．また同時に種痘をはじめとしてシーボルトの教えを受けてオランダ流医学を日本に紹介した事でも知られている．名古屋における近代医学のパイオニアとして全国的に高名な医師であった．

「北里柴三郎を北里柴三郎たらしめるもの　研究，人材，そして「私立」」について

北里柴三郎は熊本県北里村の出身である．そのような山里から東京医学校（現東京大学医学部）を卒業しドイツのコッホの下で破傷風菌の純培養に成功し血清療法の発見，ペスト菌の発見など国際的な業

績を残している．しかし，北里は帰国後，母校の東京医学校と不和の関係になり混迷の中にあったが中津出身の福澤諭吉が伝染病研究所創立のための土地や資金の世話をした事は知られており，北里との関係は深い．福澤諭吉なくばその後の北里柴三郎の偉大な業績はなかったであろう．北里も福澤の恩に報い慶応義塾大学医学部の発展に貢献したのみならず私立大学医学部の発展や開業医の医療活動に対しても大きな貢献を残している．

これらの事について地元の研究者の方々が今回のシンポジウムで更に詳細にわたって発表される事を中津出身者としても楽しみにしている．